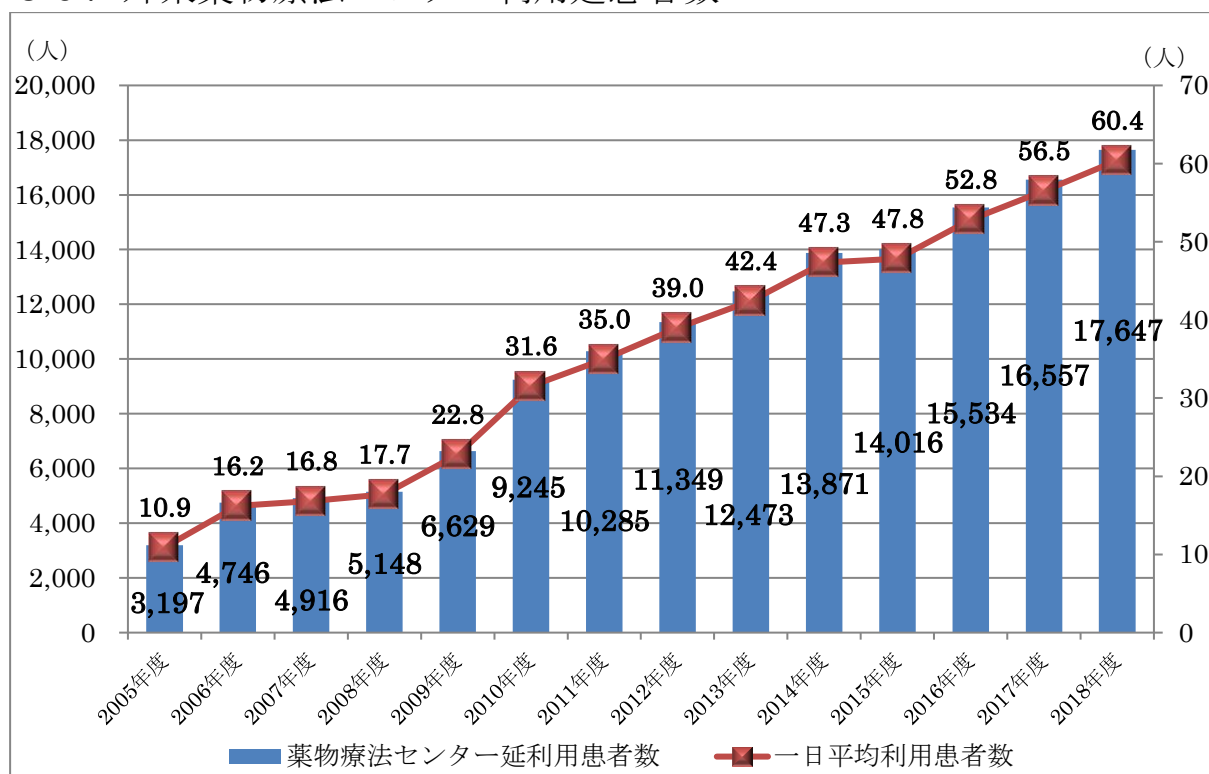


5.9. 外来薬物療法センター利用延患者数



化学療法という劇薬を安全かつ効率的に患者へ投与するために、2004年9月に外来薬物療法センターが開設され、それまで各診療科の外来で行われていた化学療法を、外来薬物療法センターに集約した。現在では生物製剤の投与も外来薬物療法センターで実施している。2018年度は、17,647件（前年度比+6.6%）の治療を外来薬物療法センターで実施した。

外来薬物療法センターには臨床腫瘍科医師2名（がん薬物療法指導医1名、がん薬物療法専門医1名）、がん化学療法認定看護師2名、そしてローテートするがん専門薬剤師が配置され、安全で質の高い医療を提供している。特にがん専門薬剤師は現在当院に6名おり、ローテーションして外来薬物療法センター業務を行っているが、6名という数は全国トップクラスの数である。これら多職種で毎日2回多職種がんボードを行い、PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを用い、安全で質の高い医療を提供している。

総合病院における外来薬物療法センターのあり方は、その病院全体のがん治療の質を反映するものである。今後見込まれる需要増に向け安全で質の高い医療を継続するよう努力する。

データ提供 外来薬物療法センター